特別支援学校

自立活動の事例

【考え・基礎知識】
・体幹頸部の安定を図り，頭部を安定させることができる。
・好きな活動について，笑い声や上肢を動かして表現できる。

【つながり】　★本単元
・視線及び呼吸を安定させて上肢を動かすことができる。
・言葉掛けと活動の因果関係に気付き，活動を期待する。

【応用・ひろがり】
・明確に意思表出ができ，安定して注視，追視ができる。
・様々な場所や他の人とでも活動を期待した表現ができる。

◇ **学年**　　小学部　第２学年
◇ **題材名**　思いきり表現しよう
◇ **題材の目標**　手を使ってスイッチを操作したり，言葉掛けと音楽の規則性に気付いて，意思を表出できる。
◇ **題材の計画**　（全 23 時間）

学習活動	時数	指導上の留意事項
※指導過程や流れは単元を通して一定とし，繰り返して行う中で，規則性への気付きから期待する力を付けること，自発的に上肢を操作できるようになることをねらう。 ＜指導過程＞ 1　はじめの挨拶をする。 2　決まった音楽で肩や腕を動かす体操をする。 3　「はじめていいかな」の言葉掛けのあと鉄琴の曲を３回聞く。 4　スイッチを押してミラーボールを３回動かす。 5　本時の活動で最も表現できた活動を１回行う（振り返り）。 6　おわりの挨拶をする。		※登校後の日常生活の指導の時間に，体幹や手足の運動に十分取り組んでおく。 ○単元を通じて活動の流れを一定に保つ。 ○頭部の安定した姿勢保持ができるよう座位保持椅子をその都度調整する。 ○喜びすぎて興奮している場合は，落ち着くまで待つ。また，不調の場合は，無理に活動させない。
課題の設定（５）　（○児童　・教師） ○鉄琴，ミラーボールに対して，感じたことを笑い声や上肢の動き等で表現する。 ・体調や表現の様子を見ながら，活動を中断したり，繰り返したりするなどの調整を行う。	5	★対象児童が保有する感覚を十分に活用し，各活動に対して，楽しんだり，感動したりするように工夫することが重要である。
情報の収集（５） ○「はじめていいかな」のあとに各活動が始まることに気付くことができる。 ○手をスイッチの上に乗せた状態で，肩から上腕のサポートを受けてスイッチを押すことができる。 ・児童が落ち着くのを待って「はじめていいかな」と言葉掛けしたり，他の言葉掛けと間をあけるなど，児童が言葉に気付くことができるよう工夫する。	5	★「はじめていいかな」の後の表現を待ったり，わずかな上腕の動きを感じてサポートするなど，児童が自分の行動の結果であることに気付けるように工夫することが重要である。 ○児童が注目できるように，言葉掛けの内容を精選する。 ○手を置く位置をわずかに変えながら取り組むことで児童の操作を評価できるようにする。
整理・分析（６） ○「はじめていいかな」があると各活動が始まることに気付いたり，手をスイッチの横に置いた状態で，肩から上腕のサポートを受けてスイッチを押すことができる。 ・「まだよ」と別の言葉掛けをした場合は始めないなど，「はじめていいかな」に注目するように工夫したり，スイッチの位置を確認したりすることができるように工夫する。	6	★「はじめていいかな」に応答できた場合や，スイッチを見て押せた場合に賞賛するなど，「はじめていいかな」の言葉掛けに注目し，活動を予測し，期待したことに児童本人が気付けるように工夫することが重要である。
まとめ・創造・表現（６） ○「はじめていいかな」で明確に期待する表現ができたり，確実にスイッチを操作したりすることができる。 ・児童が理解しやすいよう，賞賛の方法も一定にするなど工夫する。	6	★「はじめていいかな」で明確な表現ができた場合や確実にスイッチを押せたときにより大きく賞賛するなど，対象児童が規則性に気付いて存分に活動を楽しみながら表現できるように工夫することが重要である。
新たな課題の設定（１） ○鉄琴を木琴に，ミラーボールをペンライトに変えて取り組む。 ・これまでの活動と同様の意思表出ができるように工夫する。	1	★指導過程を一定にしつつも，活動内容を変えることで，新たな題材や活動にも疑問や気付きを促すように工夫することが重要である。

児童の実態

- 対象児童は１名である。身体障害者手帳１級（四肢体幹機能障害），療育手帳Ⓐを保有している。出生体重 950ｇの超低体重出生児で，モロー反射（びっくり反射）や後弓反張（全身の反り返り）があるため，運動及び言語の獲得に困難さがある。脳性まひの種類は全身性のアテトーゼである。快不快等の興奮により低緊張から全身の強い緊張まで変動が幅広い。
- 未定頸のために注視や追視が難しいが，保護者や担任等，身近な人の声や足音を聞き分けることができ，教室の外を歩く足音に反応することがある。右股関節亜脱臼があり側弯も見られる（右側の筋緊張が高い）。ペースト状の食塊を経口摂取している。風邪気味の時は，痰等が粘り排痰が難しくなるため，吸引している。比較的大きな身体運動を好むが，その度に全身を緊張させるので学習の継続が難しい。

指導の工夫

- 重度・重複障害のある児童の場合，同じ活動，同じ指導過程を繰り返して経験することで，活動への見通しが持ちやすいことから，指導過程を一定とする。また，同じ活動を繰り返す中で，自分が上肢を動かした後に楽しい活動がある等，一定の規則性に気付き，活動を期待して，一層積極的に操作するような支援も考慮したい。例えば，同じ活動を繰り返す中でも，はじめは操作したことを賞賛していたところを，途中からは，手を動かそうとしたタイミングで賞賛するようにするなど，期待する子供の姿（目標）に応じて支援を変化させることが有効である。
- 認知・コミュニケーションの指導を行うためには，注視や追視が十分にできることが欠かせない。また，注視や追視のためには，継続して学習できる体勢づくりとその維持が必要である。そのためには，毎朝，登校後に，身体をしっかり動かすとともに，毎時の授業でも，肩や手を動かし，身体全体の血行や深い呼吸を促進するとともに，関節の可動域を広げるように支援する。
- 自発表現について，主観的な評価にならないように工夫することが重要である。このため，例えば，◎・○・△・×の評価基準を設定するとともに，下図のようなチェック表を作成し，継続的，客観的な評価をしながら指導する。
- 体調がすぐれない日もあるため，毎時の評価とともに，題材全体を通じた目標の達成状況の評価を重視する。
- 児童にとって毎時の活動がつながるように，毎日，同じ時間帯に同じ授業を行うような日課の工夫を行う。また，１つの題材の指導時数については，児童の変容に応じて指導内容を再検討することが必要であり，本題材の場合，学習評価を考慮しておよそ１か月を目安として設定した。

○月○日(○)	1回目	2回目	3回目
鉄琴を期待した返事	◎◯△×	◯△×	◎◯△×
ｽｲｯﾁを押す	◎◯△×	◎◯△	◎◯△×
ふりかえり	◎◯△×		

表　自発表現把握のためのチェック表

発展的な学習

- 自発的に上肢を操作してスイッチを押して活動を楽しむ，返事をしたら活動が始まる，というやりとりを一定にした上で，生活年齢に応じた題材や音楽，言葉掛けの種類を変化させて，児童の操作性を高めたり，興味・関心の幅を広げたり，より明確な表現などを促したりしていく。
- また，児童の意欲を一層促すことができるよう，同じ活動でも，休憩時間に他の児童と行ったり，担当する教員が交代したり，家庭と連携して保護者にも同様の関わりを依頼したりするなどの工夫を行い，より意欲的に操作・表現ができたり，他者との関わりを深めたりすることができるようにしていく。